

令和5年度 第2回 温海地域振興懇談会 会議録概要

○期 日	令和5年10月3日（火） 午後2時～午後4時05分
○会 場	鶴岡市温海庁舎 6階大会議室
○出席者	五十嵐收一会長、佐藤静夫委員、佐藤容介委員、本間健一委員、 佐々木真人委員、片岡正孝委員、佐藤俊介委員、奥井良幸委員、 五十嵐晴美委員（9名）
欠席者	佐藤昌幸委員、飯塚厚司委員、三浦英喜委員、本間静華委員、 野尻 晶委員、五十嵐明美委員（6名）
市側出席者	<p>【温海庁舎】</p> <p>粕谷支所長、伊藤総務企画課長、剣持市民福祉課長、本間産業建設課長、 総務企画課 佐藤地域まちづくり企画調整主査、奥田主査</p> <p>【企画部】</p> <p>政策企画課 大滝主任 地域振興課 齋藤地域振興専門員</p> <p>【建設部】</p> <p>都市計画課 五十嵐都市計画課長、鈴木管理主査</p> <p>【商工観光部】</p> <p>商工課 本間中小企業振興主査</p>
○公開・非公開の別	公開
○傍聴者の人数	0名
○次 第	<p>1. 開 会</p> <p>2. あいさつ 五十嵐收一会長 粕谷一郎支所長</p> <p>3. 意見交換 （1）鶴岡市中心市街地将来ビジョンの策定について資料1～資料4-2</p> <p>4. 協 議 （1）第2次鶴岡市総合計画後期基本計画の案について資料5～6 （2）温海地域振興計画の具体的な施策について資料7-1、7-2 （3）その他</p> <p>5. その他</p> <p>6. 閉 会</p>

○委員発言の概要

3. 意見交換

(1) 鶴岡市中心市街地将来ビジョンの策定について

説明：商工観光部商工課 本間中小企業振興主査

G委員

・銀座商店街や山王商店街は一部活気のある店があるものの衰退している。自分自身は買い物する場合、物産館周辺や郊外のショッピングセンターに行く。人口減少が進む中、ショッピングセンターや三川のショッピングセンターと共存していく視点はなく、ただ、中心市街地の発展だけを見て活性化を目指すことでよいのか。

・通販の普及はあるが、買い物動向をよく見ていく必要があるのではないかと。

・公共交通について、温海地域内は乗合タクシー、主要な場所までは庄内交通のバスや電車などがあるが、電車への乗り換えを含め、利便性があまりよくない。障害者や免許返納者にとっては、通院や買い物などで移動するのは大変である。福祉タクシーの運行もあるが、通院のみの利用で、ついでに買い物や食事など寄り道が出来なく不便である。個人の生活にあった移動手段があると安心できるので検討願いたい。

五十嵐都市計画課長

・委員から、3つのお話があったと思う。一つ目の、郊外のショッピングセンターとの住み分けはどうするのかというご質問について、銀座、山王、日吉、駅前や南銀座等は、かつて商店街としてニーズを集め、市街地だけでなく、周辺からもたくさん訪れていた。しかし、ネットショップも普及しつつあり、既存の商店街を今までと同じように見て、活性化を目指そうとしても、なかなか難しいと思っている。魅力ある店があり、それを核にして周りに例えば食べ物屋があったり、人が集う場所があったりと、商店街を一つの切り口だけで発展を目指すのではなく、一つの街、通りとして発展を目指したいと考えている。

・二つ目は、ネットショップだけでは済まないものたくさんある。商店街の中でもそのように訪れていただける店、人々がここに来なければ得られない物や得られない体験を作ることができれば、そこに人が来ると思う。ネットでは買えないものが買えるとか、ネットでは体験できない体験ができるのか。

・三つ目の病院に通院する時に低料金で利用できる福祉有償移送サービスについて、通院のみでなく利用の範囲を広げてほしいというご要望は、ご提案として承る。病院にはたくさんの方が通院してくる。病院に行くなどの一つの目的だけで街を訪れるのではなく、診察が終わったら、近くの商店街に行き買い物をしたり、飲食をしたりとついでを楽しんでもらう視点は大切と思う。

○委員発言の概要

4. 協 議

(1) 第2次鶴岡市総合計画後期基本計画の案について

(2) 温海地域振興計画の具体的な施策について

説明：温海庁舎総務企画課 佐藤地域まちづくり調整主査

C委員

・資料7-1の地域の活性化の箇所に「地域を支える人口」とあるが、どう捉えているか。

伊藤総務企画課長

・地域の担い手の確保と捉えている。人口減少の歯止めがかからない中、例えば自治会の役員のなり手など、地域の人材をどう確保していくかという視点をここに盛り込むという趣旨。

C委員

・資料の現状と課題の中で、少子・高齢化や人口減少がトップに記載されていることは重要課題と思う。人口減少は、建物を建てても利用する人がいなくなるとか、集落においても行事をやる時に人手不足で大変になってくるとか様々影響しているので、人口を増やすことも重要視してもよいのではないか。

伊藤総務企画課長

・温海地域の人口を増やすことはなかなか難しいだろうと認識をしている。毎年、200人ずつ人口が減っており、この減るスピードを緩やかにするために、様々な施策を展開していく考えでいる。例えば、子育て世代から、子育てするなら温海地域がいいと思っていただけるような政策を打ち立て取り組んでいきたいと考えている。

C委員

・大学との連携は考えているか。大学が持つノウハウや知識により、地域の成長の可能性があるのでないか。

伊藤総務企画課長

・資料7-1の外部環境の変化に関係人口の活用とあり、現在も東京大学や東北大学大学院の学生が地域にフィールドワークに入り、施策の提言をいただくなど大学と連携した取組を展開している。今後も大学との連携を念頭に置きながら様々取り組んでいきたい。

C委員

・山形大学や東北公益文科大学との連携も考えて欲しい。

伊藤総務企画課長

・機会があれば、ぜひ一緒に何か取り組みたい。

粕谷支所長

・関係人口を広い意味で捉えており、大学だけでなく「生きる力」を育てる教育分野で、専門的な研究者からアドバイスを頂いている。山形大学農学部は、越沢集落で農学部の学生と深い交流があり、在来作物の三角そばは、大学側からいろいろアドバイスをいただいている。また、東北公益文科大学の学生が山

五十川で半年間研修を行った。市としても、このような機会を捉え、大学の専門的な知識やノウハウなどアドバイスを頂戴したいと考えている。

D委員

- ・温海地域は、昭和47年の水害から大きな災害もあまりなく、結構安全な場所であると思っている。安心安全な点は、移住を考えている子育て家族などへの売りになるのではないか。
- ・九州や中国地方は、線状降水帯により被害が大きく報道されていたが、温海地域は、意外と災害が少なく有難い。地域では、地震津波避難訓練なども取り組んでいるが、リスク度はどのくらいと考えているか。

伊藤総務企画課長

- ・昭和62年災や平成7年災はあったにしても、近年の災害報道から、この辺は比較的少ないと感じている。しかし、温海地域の90%が山林という地形から土砂災害等の危険度は、ある程度高いと考える。
- ・西目地区の災害も踏まえ、今年度10月から地区ごとに土砂災害のハザードマップの見直しを住民の皆さんと一緒にやる予定である。

C委員

- ・災害や事故等の未然防止として、警察の方から集落内の循環をお願いしたい。

五十嵐会長

- ・温海庁舎から警察への要望事項として取り扱う。

G委員

- ・人口減少対策として、すでに様々なところで魅力ある移住対策を講じているため、さらにインパクトある策を講ずるのは難しくなっていると思う。一例だが、移住家族に500万円の支援金や、妊婦さんの健診費用の完全無料化から出産費用の支援や高校卒業までの子育て費用の支援、土日仕事を持つ親のために土日保育園を開くなどにより、子育て家族の移住が増加しているところがある。子育て世代など住んでいる人の就業形態などをみて、暮らしやすい環境を作ることが人口増加につながる。
- ・防災について、毎年、避難訓練がありハザードマップに書かれている避難場所に行くが、空き地でトイレもなく困っている。避難場所としての環境整備も大事だと思う。
- ・自治会の会合で避難困難者の対応をどうするかと話題にした時、自分たちが逃げるので精一杯という声があり、具体的な対応策を検討するまで行かなかった。市の災害時の避難困難者の対応について、具体的な方法があれば伺いたい。
- ・高校生への通学費支援については大変有難いが、これから冬に向かうとJRの運休が多くなり通学が困難になる。前回、安く入れる寮を作るなどしてはどうかと提案している。通学費支援の他にも高校生の通学に対する支援策を検討してほしい。

・桜の植樹について、旧温海高校や寿海荘跡地など県へ働き掛けをしたり、他にもいろいろと空き地に植樹を検討したりしている。皆さんからもご意見やご提案があれば教えてほしい。

・前回、文科省表彰を受けている宮城県名取市の取組について、皆さんに研修機会を検討してはとお話したが全く動きがない。もう少し積極的な気持ちがないと、まちの発展に繋がらないと思う。

・地域振興計画において、全てのことをやろうとするのは難しいと思うので、皆さんから実際やりたいことなど意見聞き、大事なことを色分けしていただきたい。

・JRについて、あつみ温泉駅も空いているスペースがある。他の例を見ると、売店、図書館や郵便局を入れているところもある。JRの活性化について、地域団体が連合で、新潟駅から酒田駅まで臨時列車を走らせることを検討している。市としても、JRの活性化につながる取組案を出してほしい。

・イベントの話もあったが、具体的に何をやるのかの記載がない。過去に地域づくり団体を集めて、何かやりたいことがないかと言われたときに、総合運動場でコンサートでもやったらどうかと提案したが、その後反応がなかった。あつみ温泉街のそぞろ歩きについても、初めて来る観光客のためにモデルコースを作るとよい。自分の団体としては、大清水公園にホテルの放流を試みたが、飛んでないようだったので、来年内容を見直してもう一度取り組んでみたいと思っている。

五十嵐会長

・事例紹介と7項目ほどご提案があったが、予算に関係するような細かい点も多く、懇談会で決めるようなことでない部分もあったかと思う。

A委員

・これまで、私も長く地域の振興に関わってきて、行政も随分努力し、一生懸命関わっている姿を見ているので、私はそれなりに評価している。特に未来塾や乗合タクシーについては、利用者も喜んでいる。他の施策も全て成功すれば、すごい町になると思うので引き続き努力をしていただきたい。

・地域おこし協力隊について、選考の際に、能力ややりたいことを必ず提示してもらい入っていただいているが、隊員は今の状況に満足しているのか知りたい。テレビで他の地域おこし協力隊の活動を見たが、空き家のリノベーションやアワビを守るためにウニを拾ったり、酒田市の日向地区では、映像クリエイターの方が来て、ものすごいビデオを作ってくれたりとか、いろんな姿を見ている。温海地域の地域おこし協力隊が、今満足して仕事をしているのか聞きたい。

・森林組合では、再生林の苗木の負担金を確保するために、焼畑あつみかぶの栽培を始めた。今年度は、市からの助成が無くなり、試算したら赤字が出ていた。理事会で、赤字が出るならやめたらどうかという話が出された時、どう説明したらよいか悩んでいる。森林組合の焼畑あつみかぶの栽培は資源

循環型の取組であり地域振興に寄与していると思うので、行政からも考えていただきたい。

五十嵐会長

・焼畑あつみかぶの取組の件は要望としてよいか（A委員了承）地域おこし協力隊の件について説明をお願いします。

伊藤総務企画課長

・生涯学習振興会に配置している地域おこし協力隊は、現状を満足してはいないが、こうしたらよいのでは、こうすればもっとよくなるのではないかと考えており、我々とも共有をしている。地域おこし協力隊がやりたいことを尊重しながら、予算に盛り込む作業をしていく予定でいる。

本間産業建設課長

・観光協会に地域おこし協力隊1名を配置していたが、この9月末で退任された（1年間であった）。まず、業務のマッチングがなかなか彼女の理想と現実に乖離があったこと、3年後、当市に根をおろし起業したいという目標を持って来たが、それが描けなくなったということで、今は東京に戻り、前の仕事と同じような仕事をしているとのこと。再度、観光協会から人の配置について依頼があるので、地域おこし協力隊を配置するか別の形にするかは、まだ決まっていないが、地域おこし協力隊をお願いする時は、任期満了後に定住を描けるように詳しく説明し、マッチングがうまく行くように進めたい。

・森林組合の再造林を活用し焼畑あつみかぶを栽培する取組は、最初から市の補助金の終期を設け、その後は自走することに取り組んでいただいていた。今年度赤字というのは、多分どこの農家も発芽不良、紅白のかぶや実割れなど農作物被害を大分受けているので、当然見込みで赤字になると思う。

・温海町森林組合から焼畑あつみかぶブランド力向上対策協議会の会員になっていただいております、あつみかぶの生産者から、再造林に向かった場所を借りて、かぶを栽培してもらおう仕組みが出来ないか説明させていただいたが、皆伐地の選定や実施時期の調整、土地の所有者と生産者のマッチングなども含め、森林組合とともに一緒に考えながら進めたい。

E委員

・自分は、資料に記載の4つの基本方針に温海の魅力を感じている。資料5の5つの加速化アクションには、若者や子育てに関する記載がある。地域の振興においても、若者が魅力を感じるような文言をもう少し考えていただきたい。

・温海地域には、名所、旧跡や道の駅が少ないと思う。他県では、道の駅が、5～6キロぐらい行くと次の道の駅があり、産直も同じようにある。寄れるお店を増やしていただければ有難い。鶴岡市には観光物産館があるが、温海の道の駅では「温海感」を出してほしい。高品質な温海豚があるが、どこで買えるかわからない。物産館に行けば、あつみかぶと称して羽黒や櫛引産

のものが販売されている。もう少し、あつみかぶをPRしていただきたい。
また、インターネットの普及ということで、商工会や市役所が協力して、この町の本物をネットで買えるようにしてはいかがか。

H委員

・温海地域には、三角そばやあつみかぶなど、美味しいものが沢山ある。販路拡大もよいが、ここに来ないと食べられない、ここじゃないと体験出来ないというものを色々考え集客したらよいと思う。鼠ヶ関のインターを降りると美味しい魚が食べられる、越沢に行けば三角そばが食べられる、関川ではしな織体験が出来るなど、温海地域内でツアーを組み巡ってもらうのもよいのではないか。

・インスタ映えする場所を作り、若い人たちが集まれば活性化できるのではないか。イルミネーションや花火など、若い人たちは結構キラキラしたものが好きなので、冬の花火も綺麗だと思うし、温泉街の桜並木をイルミネーションしたりしてはどうか。山に行けばイワナが掴めるとか、海岸に行けば磯釣り大会が出来るなど体験型で若者を呼べるようなものもあるとよい。

・在来作物の三角そばを東京に出すのではなく、逆に三角そばを食べるために来てもらい集客に結びつけることを考えた方が地域の活性化につながると思う。

五十嵐会長

・関係人口と交流人口の拡大の部で若い人に向けた視点を持った施策も必要なのではないかという提案であった。

B委員

・あつみ温泉街の魅力の向上ということで、現在もばら園の改修計画や、庁舎の協力により温泉街の休憩スペースの保守を継続できるようにしていただき、我々も人的な協力をしながら、綺麗に維持していきたいと思っている。また、浴衣めぐりなどのイベントを実施し、お客さんに楽しんでもらえるように工夫し取り組んでいる。

・一方でマイナスイメージになる、空き家、空き店舗、廃屋や倒壊の危険のある建物に対する行政の対応について伺いたい。中心市街地の活性化の中でも同様の問題があるかと思うが、それに対して行政がどのように取り組んでいくのかお聞きしたかった。

・高速道路のインターチェンジができ、新しい道の駅ができることに大変期待している。まだ、運営する事業者というのが決まっていなと思うが、主な施策に挙げている、特に地元水産物の販売について、なかなか難しい現状であると思われるが、運営事業者が必ずやってくれる保障があるのか心配である。先月、しゃりんで水産物販売実証実験事業に取り組まれていたが、水産物の販売はリスクもある。事業として考えるにあたり、マイナス要素は、切り捨てられることがあり、地元の要望と事業運営主体者側と乖離する部分も出てくると思うが、どう考えているのか教えていただきたい。

本間産業建設課長

・廃屋については、地元から要望書の提出があり行政内部でも検討をしているが、行政代執行は特別な事情がない限り出来ない。これまでの市の実績としては雷屋1件のみであり、相当ハードルが高いと考えている。ただし、危険が伴う場合は、その危険な箇所のみを取り除くことに支援することが可能か検討していると聞いている。

・新道の駅の運営事業者が12月18日に決まり、その後仮契約を結ぶ予定でいる。運営事業者を応募する際に、現在の道の駅しゃりんへ商品を入れている業者や産直の方々を引き継ぐように求められているので、引き継がれるはずである。これまで行ってきたイベントも大なり小なり、引き継がれると思う。

・水産物の販売に関しても、新道の駅で販売が可能なのか、しゃりんでも実証実験を行っており、その結果を踏まえ運営事業者が販売可能と判断したら、出店業者にお願いしていくものと捉えている。

B委員

・新道の駅は、観光拠点になり、お客さんが集まる観光施設にもなると思うので、地元の要望なども調整していただければと思う。

F委員

・基本方針4の②資源を生かした地域活力の創造の具体的施策に遊休資産を活用した地域活力創造の支援とあるが、どのようなイメージか。

伊藤総務企画課長

・例えば、旧山戸小学校の体育館は地元が無償で貸し付けし活用いただいているが、校舎部分は利用がなく遊休資産となっている。民間はいろいろな手法を持っているので、基本的には民間活用を柱に遊休資産の利活用を考えていきたい。

F委員

・空き家の問題があるが、移住者や関係人口になられる方向けに空き家をリノベーションする支援や空き家を解体し更地にする費用を支援し、その物件情報を提供するなどがあるとよいと思う。

・高校生の通学費補助は有難い。しかし、JRの電車は、冬場、遅延や運休することが多く通学に支障をきたしている。私立高校だとバスがあるが、公立高校だと手立てがなく家族対応となるので保護者の負担も大きい。不便であるため、子育て世代が温海地域から出てしまう。JRは前日の夜に運休や遅延のお知らせをするので、それを見て通学バスを出すなどの対応をお願いできないか。実証実験として、冬期間2回だけでも通学バスを運行し検証していただければと思う。

五十嵐会長

・子育ての関係、移住定住や観光など様々な質問があったが、総合計画全体の中身についても触れて説明があると、委員も納得する部分があったのでは

と思ったので、ご配慮をいただければと思う。

・農業関係の主な施策の③持続可能な営農体制の構築に、担い手となる経営体への「農地集積を進める」とあるが、農地集積により農業者の数が、例えば12人から3人に減ると、今までやってきた農道や水路などの維持管理が大変になってくると思う。今、実際、自治会の負担になっている。農地集積と同時に、農業施設の維持管理に関する制度も少し検討していく必要があると思う。

本間産業建設課長

・農地集積を進めるというのは、これからすべての農地を守っていくのではなく、収益性の高い農地を守るべきではないかという視点を含んでいる。よって、農道や水路についても、どんどんコンパクトになっていくものと考えて。また、担い手に関しては、個人だけでなく、法人がこれまで耕作していた人を雇用し、その農地を守るというような手法もある。

今、考えているのは「まるっと中間管理方式」といって、農地バンクの方にすべて農地を集積し、それを担い手に分配して耕作してもらう。

今まで農地を耕作していた人で、まだ頑張れる人は、その方から頑張ってもらい、それができなくなったら、法人や大きな農家が請負っていく。農業を頑張れる方々が、ずっと頑張れるような体制づくりを農地保全組合等とご相談している。

五十嵐会長

・多面的交付金の制度は、なかなか煩雑である。その事務に携わる方々の苦勞という部分は、なかなか国には伝わらないと思う。もっと簡単に単純に使えるような制度にするのも、農業者を守っていく一つの仕組みであると感じるので今後検討していただきたい。

・欠席委員からは何かあれば紹介いただきたい。

佐藤地域まちづく

※欠席委員からの質問等を紹介

り企画調整主査

(I委員)

・資料6の4ページ主な施策⑥について「あつみ地域未来塾の取組を支援する」と記載あるが、主催は温海中学校協働本部で事務局が温海庁舎総務企画課となっており、実際の運営も職員が行っていることに「支援する」とはどういうことか。

・資料7-2基本方針4の施策の方向に「子育て世代に選ばれる魅力のある地域を目指す」とあるが、子育て世代に選ばれる魅力とは具体的にどのようなものを考えているか、子育て世代が何を求めているのかニーズ調査をしているのか、温海地域の子育て世代の声をどこで拾っているのか。

・資料7-2基本方針4の主な施策⑥に「ICTを活用し学習支援を行うあつみ地域未来塾の取組」とあるが、ICTの活用とは具体的に何を想定しているのか。パソコンやタブレット端末などのデジタル機器の導入などが必須となる

と思うが予算化しているのか。

・資料には記載ないが、保育園留学について、現在の状況を報告いただきたい。また、今のところ、保育園留学の申込が0件と聞いているが、その原因を市やあつみ福祉会ではどのように捉えているか。

(J委員)

・自分の住んでいる所は、山奥で不便なところもある。しかし、私は不便だからこそ、考える力、昔ながらの生きる知恵など、今必要とする生きる力が育つというふうに考えている。自分は、高齢の方々から様々教えていただき、自分なりのやり方を考え工夫している。地域の高齢者は、豊富な経験と昔ながらの知恵を持っており、聞かないともったいないと思う。

・一緒に暮らしている若夫婦に大学生等の若者が1～2か月ほどで30人以上遊びに来ている。冬は大変な屋根の雪下ろし作業を手伝ってくれたり、下した雪でかまくらを作り一緒に楽しんだりと交流をしている。こちらは、べろべろもち汁や、春に塩蔵しておいたワラビやタケノコなど、ここでしか食べられないものをご馳走し喜んでもらった。ここに来ないと食べられない、楽しめないというものを大切にしていきたい。また、今後も若い人たちの交流を大切に、交流により地域のことを少しでも知ってもらいたいと願っている。

粕谷支所長

・様々のご意見、ご提案をいただきどうもありがとうございました。

ご意見は、計画等に盛り込ませていただいたり、今後の検討材料とさせていただくこともあろうかと思う。予算や人員に限りがあるので、すべてを実現するのは、なかなか難しいとは思いますが、様々な視点でご意見をいただいたことに感謝する。

・若者はキラキラしたものが好きという話もあったが、街中を見たり、食べたり、買い物したりと楽しむ場所をいかに作るかは民間側の努力で、行政は、研修会の実施など様々な土壌づくりや実現に向けた側面支援が役割と思っている。奥井委員からは、人口減少に歯止めがかかっている成功事例など紹介いただいた。それぞれの環境は違うが、努力しているところは、それなりの効果を上げている。市側も知恵を出し努力するが、委員の方々含め地域の皆様からも良い知恵やアイデアをいただきたい。

・テレビで、緑の中を散歩するなど体を動かしていると、よいアイデアが出てくると言っていた。私たちは、よい環境にいるので皆様からも引き続きご支援をいただきたい。

五十嵐会長

・委員の皆様から出されたご意見等を、鶴岡市全体の総合計画や温海地域振興計画の中に調整検討をお願いしたい。